

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10 No.12 2008年6月30日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

日本タンバーク、テレプレゼンスソリューションとビデオ IP フォンの新製品を発表、テレプレゼンスソリューションは 1080p に対応

日本タンバーク株式会社(東京都港区)は、テレプレゼンスソリューションとビデオ IP フォンの新製品を発表した。

テレプレゼンスソリューションとしては「TANDBERG T1(タンバーク T1)」と、インテグレーション向けのコーデックエンジン「TANDBERG Codec C90(タンバーク・コーデック C90)」、そして、次世代ビデオ IP フォンとしては「TANDBERG E20(タンバーク E20)」を発表。



TANDBERG T1

> TANDBERG T1 と TANDBERG Codec C90

TANDBERG T1 と TANDBERG Codec C90 の販売開始時期は、今年の 10 月以降、また TANDBERG E20 については、来年 1 月以降を予定している。価格は未定。

TANDBERG T1 は、1080p HD に対応し役員室や小規模会議室など、2-3 名の少人数を対象とした用途に適したテレプレゼンスシステム。65 インチ液晶モニターや「PrecisionHD 1080p カメラ」、そしてコーデック部には、TANDBERG Codec C90 を搭載。オプションとして、テーブル、プレゼンテーションスクリーン、照明、椅子2脚も提供する。

TANDBERG Codec C90 を搭載した TANDBERG T1 が、1対1での会議をおこなう場合、1080p の解像度を 30 フレーム/秒、また多地点(Multisite)では、720p@30 フレーム/秒で接続する。使用帯域は H.323/SIP の 1 対 1 接続では最大 6Mbps、多地点では、最大 10Mbps での接続が可能。映像符号化については、H.261、H.263、H.263+、H.264 を、音声については、G.711、G.722、G.722.1、64bit & 128bit MPEG4 AAC-LD、AAC-LD stereo をサポート。



TANDBERG Codec C90 前面



TANDBERG Codec C90 背面

また映像と音声の入出力は豊富なインターフェイスを提供している。映像入力としては、HDMI (x4)、HD-SDI(x4)、DVI-I(x2)、YPbPr(x2)をサポート。音声出力は、XLR 24V ファントム電源供給マイク(x8)、RCA phono Stereo PC(x2)、RCA phono Stereo AUX・DVD(x2)。

出力系では、映像出力は、HDMI(x2)、DVI-I(x2)、Composite(x1)をサポート。音声出力は、XLR(x2)、RCA phono stereo main audio(x2)、RCA phono stereo to recording device(x2)、HDMI digital stereo main(x1)、HDMI stereo to recording device(x1)。

ネットワークインターフェイスについては、ギガビットイーサネットに対応。

その他、Dual Stream(H.323: H.239, SIP:BFPC)、ファイアウォールトラバーサル(TANDBERG Expressway, H.460.18・19)、管理運用システム「TANDBERG Management Suite(タンバーク・マネージメント・スイート)」などに対応。

システム管理では、SNMP、Telnet、SSH、XML、SOAP を搭載し、ウェブブラウザ、HTTP、HTTPS を使ったソフトウェアアップグレードも行える。



PrecisionHD 1080p カメラ

PrecisionHD 1080p カメラは、プログレッシブ 1920x1080 ピクセル解像度で 60 フレーム/秒に対応。12 倍ズーム、チルト(+15 度/-25 度、パン(+/- 90 度)、水平視野角 43.5 度、垂直視野角 72 度、フォーカス距離 0.3m~無限大に対応している。自動もしくは主導にてフォーカス、明るさ、ホワイトバランスの調整が可能。Near end(自端末)/far end(相手端末)で 15 個のプリセットを設定可能。Dual HDMI/HD-SDI 出力をサポート。据え置き、天つりの設置が可能。画像の自動フリッピング機能を搭載。

> TANDBERG E20

TANDBERG E20 は、目線の位置に設置された 5 メガピクセル解像度のカメラ、10.6 インチ LCD ワイドモニター(WXGA)、20kHz 広帯域(電話は 3.4kHz)の再生が可能な内蔵スピーカーまた 10kHz の再生が可能なハンドセット、プレゼンテーション受信機能、使用頻度の高い機能用の多数のソフトキーを搭載している。

SIP 通信時最大帯域は 1152kbps まで、また、解像度は DVD 画質並の w448p(768x448 ピクセル解像度)をサポート。

映像符号化方式は、H.263、H.263+、H.264 に、音声符号化方式は、AAC-LD、G.729ab、G.722、G.722.1、G.711 に対応している。

カメラは、解像度が 720p@30 フレーム/秒に対応し、水平視野角 50 度、垂直視野角 29 度、+5 度/-5 度のデジタルチルト、手動のカメラフォーカスをサポートしている。またプライバシー保護のためカメラシャッター、ビデオミュート、音声ミュート、ヘッドセット接続を用意。



ト、音声ミュート、ヘッドセット接続を用意。

(写真左)
TANDBERG E20

ネットワークインターフェイスは、PC 用と LAN 用にギガビットイーサネットポートを搭載。

その他では、
「 Video

Communication Server Express(VCS)を通してファイアウォールトラバーサル通信、Dual stream(SIP:BFPC)、TANDBERG Management Suite(TMS)による監視にも対応。また SNMP、Telnet、SSH、XML、SOAP を搭載したウェブブラウザ、SCP、SSH を使ったソフトウェアアップグレードが可能。

日立ソフト、65 型と 50 型プラズマディスプレイを搭載したインタラクティブ電子ボードの新モデルを発表、テレビ会議システムとの活用も可能

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社(以下、日立ソフト、東京都品川区)は、インタラクティブホワイトボード「StarBoard(スターボード)」シリーズの新モデル 65 型プラズマディスプレイを採用した「PX-DUO-65」と、50 型プラズマディスプレイを採用した「PX-DUO-50」を 6 月 11 日より販売開始した。

インタラクティブホワイトボードは、電子教科書やデジタ

ルコンテンツを使った授業や、パソコンの電子データを効果的に活用して会議やプレゼンテーションを行うためのツールとして学校や企業で利用されており、同社の StarBoard は、全世界 60 カ国以上で累計 8 万台以上の販売実績があるという。

Starboard は、画面がタッチパネル式になっているため、ディスプレイ上に表示された画像に対して、指やスタイラスペン（指し棒）、電子ペンで画面に描き込みなどが行える。また手のひらでスクロールしたり、2本指で拡大縮小したりなども行える。2人同時にも手書きなどの画面操作が行える。

電子ペンはより本物に近い電子ペンに開発されており、たとえば、CAD の 3D シミュレーションなどで要求される中クリック、右クリック、ダブルクリックなども快適に操作できるという。



PX-DUO シリーズ

またシステムの操作やソフトウェアの操作を行うためのファンクションパネルを本体の画面外に搭載し、ソフトウェアの機能やキーボード操作をパネルに割り当てることで、より使いやすくした。このファンクション機能はユーザの用途に応じて自由にカスタマイズが行える。

さらに Starboard はテレビ会議システムとの連携も出来る。ホワイトボード機能やデータ共有機能と、テレビ会議システムを組み合わせた利用方法だ。その場合 Starboard では、「ピクチャーインピクチャー機能」を使う。そすると、Starboard で共有しているパソコン画面とテレビ会議システムの画像を同時に表示することが可能。同社のプレスリリースの情報によると、HD に対応したテレビ会議システムでも、高画質で表

示が可能という。

PX-DUO-65、PX-DUO-50ともに価格はオープンプライス。出荷時期は、6 月末を予定。日立ソフトでは、初年度で 1,000 台の販売を目標にしている。

NEC、テレビ会議、映像配信、映像監視など多様な HD 映像アプリケーションに対応した多目的ビデオステーションを製品化



NC-1000MV

日本電気株式会社（以下 NEC、東京都港区）は、HD に対応した多目的ビデオステーション「NC1000-MV」を製品化したと発表。発売は、今年 10 月を予定。

NC1000-MV は、NEC がテレビ会議、映像配信、映像監視といった各種映像サービスを従来の SD 製品並の価格で実現する装置として開発した。

プレスリリースで公表されている搭載予定のコーデック等は、以下の通り。映像コーデックは、H.264 Baseline Profile/Main Profile/High Profile MPEG-4 Visual Simple Profile。音声コーデックは、G.722、G.711、AAC、AMR。通信プロトコルは、SIP(NGN 対応)、H.323、RTSP。

今回の製品化の背景には、テレビ、カメラ、DVD など映像機器の HD 化が進んでいるとともに、ブロードバンドの普及や NGN（次世代ネットワーク）の登場によってネットワークによる HD 映像のデータ伝送ニーズが増えてきたことがある。そういった中で安価に HD 映像を活用できる製品を求める声が高まってきたと同社では説明する。

「NC-1000MV は、映像サービスのための主要な機能を取りそろえており、必要な機能を組み合わせることで様々なサービスを提供できるとともに、導入時の設定などの手間を極力無くし、システムインテグレーションを容易にする。」（NEC）

NC-1000MV を使った利用としては、多地点を接続した

HDTV 会議、ビデオコンタクトセンタ、遠隔授業、教育用映像配信、防犯対策などの映像監視、イベント中継などの用途に対応できる。またこれらを複合連携させることにも対応しているという。

予定価格は、98 万円(HDTV 会議が可能、本体のみ)から。通信事業者、ISP、企業など向けに販売活動を開始する。NEC では、今後 3 年間で 1 万システムの販売を見込んでいる。

業界ビジネス動向-国内

エルモ社、アエスラ社とテレビ会議市場向けソリューションの共同開発などで業務提携

株式会社エルモ社(愛知県名古屋市)と Aethra S.p.A.(アエスラ社、イタリア アンコナ市)は、テレビ会議システム事業分野における協業関係で提携したことを発表。両社の合意によると、相互に製品供給を行うとともに、新たなテレビ会議システム市場向けソリューションの共同開発を行う。

今回の協業により、お互いに得意な分野を役割分担することで、よりよい製品作りと強力なテレビ会議システムラインナップを提供し、日本市場でのシェア拡大とその地位の確立を目指す考えだ。



Vega X5-S4

今回の協業での内容は以下の通り。(1)エルモ社の PTZ(パン・チルト・ズーム可動式)カメラをアエスラ社のテレビ会議システムに採用する。(2)アエスラ社のテレビ会議システムを、サンヨーOA グループを含めた国内販売チャンネルを通じ、日本市場で販売していく。数年後には、年間 10 億円規模の事業への成長を目指す。(3)両社の保有する技術力を組み合わせ、テレビ会議システムと書画カメラとの連携、モニタリングカメラとの連携、遠隔授業システムなど、販売面のみならず中長期に渡るシステムソリューション開発に関して協業し、将来的には新たな統一ブランド確立も視野に入

れた協力を行うという。

業界ビジネス動向-海外

米ポリコム、IDG の CIO 100 アワードを受賞

米ポリコム社は、IDG 社が発行する CIO Magazine 米国版が主催する 2008 年の「CIO 100」に選出されたことを発表した。今年で 21 回目を迎える同賞は、IT 分野世界最高レベルの経営と戦略を実践したと同誌が評価する企業に贈られるもの。

今年の CIO 100 の受賞者は、3 段階のプロセスを経て選出された。まず、企業がビジネスと IT の両方における革新性を示す実績をオンラインの申請書に入力して提出し、審査員がそれら事例の独自性や実績を徹底的に審査した。それをもとに CIO 編集者が審査員の推薦を協議し、投票により 100 社を選出した。またその 100 社の中から数社に特別賞が授与された。2008 年の CIO 100 Award に関する詳細は、6 月 1 日より <http://www.cio.com/cio100/2008/4> に公開されている。

技術動向

NTT、H.264 に準拠したフル HD リアルタイムソフトウェアコーデックを世界で初めて開発

日本電信電話株式会社(東京都千代田区)は、H.264 映像符号化方式に準拠した HDTV リアルタイム並列ソフトウェアコーデック「RISCA264-HD(Real-time and Interactive Software-based Codec Architecture for H.264-HDTV、リスカニーロックオンエイチディ)」を世界で初めて開発した。

RISCA264-HD は、光ブロードバンドサービス(Bフレッツ等)と市販のパソコンだけで、手軽に HDTV クラスの高解像度でリアルタイムかつ双方向に映像伝送を実現する双方向低遅延コーデックで、NTT サイバースペース研究所において長年コーデック開発で培ってきた映像符号化技術をソフトウェアに展開し一層の普及促進を図ったもの。

高速なエンコーダ/デコーダエンジンと、IP パケット送信/受信エンジンから構成され、市販のパソコン(Quad-Core CPU 3.0Ghz 程度)上で、HDTV サイズ(1920 画素 x1080

ライン)でテレビ放送並の毎秒30フレームの映像伝送を毎秒10から15Mbpsの双方向映像伝送速度で、そして片方向0.2秒以下の低遅延で実現することができる。0.2秒は、自然な会話ができる遅延の最大値と言われている。

技術的には、マルチコアCPUへの適応化やIPパケット送信/受信処理の高速化とネットワーク特性を考慮したパケット送受信法、パケットロスによる映像や音声の劣化を抑制するための独自のフレーム抑制法などが採用されている。

今回開発したRISCA264-HD技術の前身であるRISCAは、NTTレゾナント株式会社(東京都千代田区)の“WarpVision(ワープビジョン)”として提供されているが、RISCA264-HDについても、事業化を検討していくという。

セミナーレポート

NTTアドバンステクノロジー、映像会議ソリューションセミナーを実施、豊富な製品ラインナップを揃え販売強化を図る



セミナー会場

NTTアドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)は、6月5日大阪にて「映像会議ソリューションセミナー」を開催。同社が販売するテレビ会議、Web会議、映像配信ソリューションをセミナーと展示によって紹介。映像会議ソリューションに関心の高いNTT西日本法人営業担当者など30名が参加。

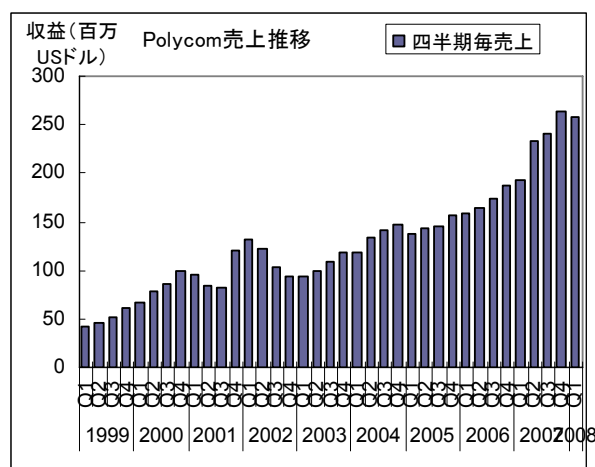
NTTアドバンステクノロジーでは、ICTプロダクツビジネスユニットメディアコミュニケーションシステムチーム(東京都豊島区)において、映像会議ソリューションの販売をしているが、今後ブロードバンドやNGN(次世代ネットワーク)の普及とともに

に、映像系アプリケーションのニーズは増えると見ている。「映像ソリューションは、移動などの会議コスト削減の他、温暖化問題などのエコ実現にも最適だと考える。それに対して当社では、幅広い製品ラインナップとネットワークに関する豊富な知識で、お客様のご要望にお応えするさまざまなオプションを提供するとともに、導入後も運用から保守まで万全に対応している。今後も各メーカーなどと緊密な協力を通して映像会議ソリューションの販売強化を図っていく考えだ。」(NTTアドバンステクノロジー)

展示会場では、タンバーク社のビデオ会議システム、NTTアイティのWeb会議システム「MeetingPlaza」、NTTアドバンステクノロジーのペーパーレス会議支援システム「MeetingPerfe II」、エコーキャンセラ「RealTalkシリーズ」、NTTエレクトロニクスの「MPEG-2 CODEC SU1000」が紹介され、参加している法人営業担当者が今後の提案活動でのヒントなど熱心な質疑応答が見られた。またセミナーセッションでは、各製品の特長やデモンストレーション、利用事例、今後の展開などが発表され、基調講演では、CNAレポート・ジャパンの橋本啓介が映像会議市場の動向に関する講演を行った。

業績発表

*米ナスダック市場等上場企業の業績レポート
2008年第一四半期(1月-3月期)
ポリコム社(米)



米ポリコム社の2008年第一四半期(1月-3月)の売上は、2億5890万USD(約280億円)で、2007年第4四半期より若干減少したが、2007年第1四半期よりも、約34%の売上増を記録した。その中には、SpectraLink社(WiFi電話機メーカー、2007年買収)の売上3940万USDが含まれる。

端末台数ベースによると、グループ会議系(HDX、VSX)の販売は、19,618台、またデスクトップ系端末の販売は、10,713台だった。

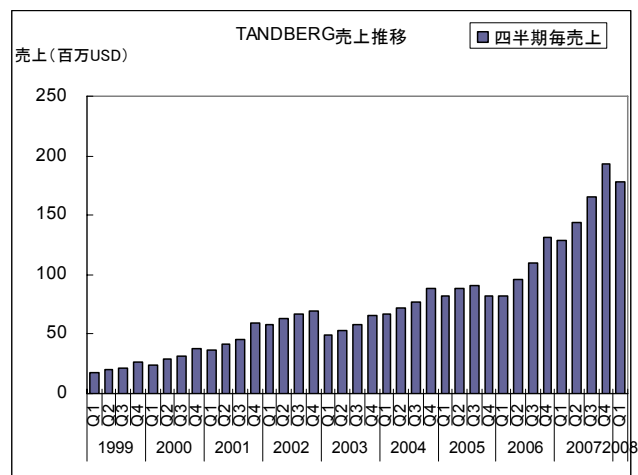
全体の売上のうち、ビデオ会議端末販売が51%、ネットワーク装置販売が11%、音声会議端末が38%を占め、2007年第1四半期に比べ、ビデオ会議端末や音声系端末の売上が大きく伸びた。たとえば、ビデオ会議は、2007年第1四半期では、1億3660万USDだったのが、2008年第1四半期では、1億5950万USDと増え、また音声系端末では、2007年第1四半期では、5,610万USDだったのが、2008年第1四半期では、9,940万USDとなった。

地域別では、北米が53%、EMEA(欧州、中東、アフリカ)が27%、アジア太平洋が17%、南米が3%。

同社では、出張コスト増、CO2削減、企業のグローバル化などが要因となって会議システムやユニファイド・コミュニケーションの需要が伸びていると分析。そういった中で、昆四半期は、Polycom HDX 7000、Polycom TPX、音声系では、IP 6000やIP 7000を発売(主に北米)することで製品ラインの強化しつつ、一方でセールスチームの増員やマイクロソフト、ノーテル、アバイア、IBMなどとのパートナーシップの強化と、マーケティング活動の積極的展開などを行うことで一層の需要喚起を図りつつ、同社の市場でのリーダーシップをさらに強化していきたい考えだ。さらに、パートナーシップの関係では、ビジネス向けコミュニケーションソリューション以外にも、たとえばノーテルとはヘルスケアでも協力を強化しているという。

第一四半期は一般的に季節的に“弱い”四半期と言われるが、「第二四半期は季節的に強い。」(CFO Michael R. Kourey氏)と第二四半期以降の展開に経営陣として期待を強く持っているようだ。

タンバーク社(ノルウェー)



タンバーク社の2008年第1四半期の売上は、1億7810万USD(約136億円)、営業利益は、3740万USD(約39億7000万円)、税引き前利益は、3470万USD(約37億円)。出荷台数は、1万5077台であった。

第一四半期においては、マイクロソフトの「Microsoft Office Communications Server 2007(マイクロソフト・オフィス・コミュニケーションズ・サーバ 2007)」との互換性の強化の他、マイクロソフト向けの初の高品位(HD)ウェブカメラの発表、Microsoft RT Video コーデック/Microsoft RT Audio コーデックのライセンスなどがあつた。

ノーテルとは、世界中のエンタープライズを対象とし、フルマネージメントによるテレプレゼンスやHDビデオ会議ソリューションを共同で発表。

またコーデアン社(Codian)の買収はタンバーク社のインフラ製品に関連したソリューションの強化とその信頼性の強化に寄与したと同社ではコメントしている。

セミナー・展示会情報

Web会議でエコノミー+エコロジー!

-- 簡単グリーンITで最新の環境経営を --

日時:7月8日(火)14:00-15:00

会場:Webセミナー

主催:ウェブエクス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/jp/web-seminars/webseminar_070808.html?SourceId=m1

LotusDay 2008

日時:7月15日-16日(東京)、7月24日(大阪)
 会場:グランドプリンスホテル赤坂(東京都港区・紀尾井町)
 ホテル阪急インターナショナル(大阪市北区茶屋町)
 主催:日本アイ・ビー・エム株式会社
 詳細・申込:
<http://www-06.ibm.com/jp/software/lotus/events/ld2008/>

*ユニファイド・コミュニケーションを特集したトラックが15日に開催。
 日本アパイア、ヤマハ、ラドビジョンジャパン、NECが講演。24日
 大阪では、NECが講演。

NET ONE SOLUTION STREAM 2008**ネットワークコンピューティングからクラウドコンピューティングへ**

日時:7月15日(火)~16日(水) 10:00~18:00
 会場:ザ・プリンス パークタワー東京(東京港区)
 主催:ネットワンシステムズ株式会社
 詳細・申込:<http://pvs2008.netone.co.jp/>

*「User Experience」の展示コーナーでは、ユニファイド コミュニケーション、HDビデオ会議端末、Cisco TelePresenceなどを展示。また、セッションコーナーでは、「User Experienceを実現するCisco TelePresence、進化するコミュニケーションスタイル~ユニファイドコミュニケーションがもたらす効果~」の講演もあり。

Wainhouse Research Collaboration Summit - Boston 2008 - The premiere interactive forum on Unified Communications

会期:7月16日-18日
 会場:アメリカ ボストン Royal Sonesta Hotel
 主催:Wainhouse Research, LLC
 詳細: <http://www.wainhouse.com/boston08/>

ZDNet Japan スペシャル

ZDNet Japan(<http://japan.zdnet.com/>)スペシャルで2月7日より「進化するテレビ会議」特集が始まりました。その中で、橋本もコラムを何回か書かせて頂きました。よろしければご覧いただければ幸いです。今後とも宜しくお願ひ致します。

進化するテレビ会議

<http://japan.zdnet.com/sp/feature/visualcomm/>

- (15) --会議システムはユーザーの発想と工夫で用途が広がる(6月5日)
- (14) --会議システムの効果を生み出す最良の方法(5月29日)
- (13) --マイクロソフト:ウェブ会議はもっと手軽でなければならぬ(5月27日)
- (12) --ブイキューブ:セミナーやセールスなどに広がり見せるビジュアルコミュニケーション(5月20日)

- (11) --ソニー:AVメーカーらしさを追求したビデオ会議システム(5月13日)
- (10) --ウェブエックス:実務者の共同作業に適したウェブ会議(4月24日)
- (9) データ共有でメリット活かすウェブ会議システム(4月10日)
- (8) 導入しやすくなってきた会議システム(4月3日)
- (7) 単純には進まなかった会議システムのIP化(3月27日)
- (6) アエストラ:通信機器のノウハウ活かす会議システム(3月19日)
- (5) タンバーク:業務を革新させるビデオ会議システム(3月10日)
- (4) ポリコム:会議の質を変えるHD対応からテレプレゼンスへ(2月29日)
- (3) NTTアイティ:会議システムは業務改善ツール(2月21日)
- (2) ビジュアル コミュニケーションの歴史(2月14日)
- (1) ホウレンソウと遠隔会議システムの深い関係(2月7日)

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。
 次号も宜しくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本 啓介